

1. 調査報告概要表

作成日 2008年8月14日

【評価実施概要】

事業所番号	"0175000777		
法人名	有限会社 エーデルワイス		
事業所名	グループホーム エーデルワイス		
所在地	北見市末広町350番地59 (電話) 0157-61-6670		
評価機関名	(有) NAVIRE		
所在地	北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成20年8月4日		

【情報提供票より】(20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	5.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,625～28,250 円	その他の経費(月額)	光熱費12,600(10～4月9,450)
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 370 円
	夕食	380 円	おやつ 食費に含む
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(6月30日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白川整形外科内科医院 ・ みやまクリニック ・ 岡田歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は閑静な住宅街に立地した2階建てで、敷地内には系列のデイサービスがあり、利用者がお互いに行き来する等の楽しみとなっています。ホーム横に設置されたテントの中で日光浴や焼き肉等で気分転換をしています。居間は自分の居場所があるという安心感を感じさせてくれる明るい雰囲気になっており、毎日の生活の中で笑いの体操、ラジオ体操、歌を歌う、回想法等により利用者との会話を広げケアに繋げています。小さい時から認知症の方との触れ合い、将来地域の一員として慣れ親しむ環境作りの基盤を整える等、先のことを考え、日々、地域との関わりを大切にしています。管理者は認知症周知のための講演会、研修会等で講師を努め、地域に還元しています。理念に「内的世界」を掲げ、職員は利用者の秘められた力や生き方・暮らし方を大切に、利用者本位のケアの実践に努めています。一日中笑いが絶えない明るいホームになっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価による課題については、職員会議の中で話し合い、職員の配置等の検討により、利用者の希望する時間(夜間等)で入浴できるよう支援しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議や勉強会の中で話し合い、ユニット毎にリーダーがまとめ、作成し、管理者が確認しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域住民代表、利用者、家族等のメンバーで構成されていますが、その他、地域住民等多数の参加により開催しています。活動状況、利用者の健康状態、療法の実践報告等により意見交換が行われ、評価を得ることに繋がっています。欠席された家族には内容等についてお便りで報告しています。会議終了後に交流会を実施するなど、地域との交流の場となっています。利用者自身が家族や地域の人のとの交流を楽しみとしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や家族の訪問時を大切な機会と捉えています。利用者の生活状況やエピソードを伝え、家族の帰宅時は必ず声をかけ細かい気配りをし、思いや不安等を聞きとるよう心がけ日々のケアに反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会自治会に参加したり、町内行事(掃除、夏祭り等)には職員と一緒に参加しています。近隣地区へお便りの配布、地域住民の多数が参加してくれる運営推進会議、交流会等を通じて地域の理解と輪を広げています。中学校でのサポーター養成講座を開催する等、子供達との交流を図り、認知症への理解を得ることに繋がっています。ボランティア(詩吟等)の慰問、子供達(園児等)の来訪は利用者の楽しいひとときとなっています。

(有)NAVIRE

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることが出来るように独自の理念を掲げています。理念等が掲載された事業所のパンフレットは、大きめの文字で読み易い配慮がされています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見やすい位置に掲示されています。又、理念の他に全職員が作成した年間目標等を掲げ、朝礼時等に読み合わせをし、職員一人ひとりが意識を高め、ケアの実践に取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内行事に職員と一緒に参加しています。ホームからの発信により、地域住民と一緒に参加できる行事等の工夫をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施するに当たり、管理者・各ユニットリーダー、一部の職員で話し合いがされています。	○	評価については全職員で取り組み、項目毎に話し合いケアの振り返りや気づきを集約し、更に事業所の質の確保に活かすことを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されています。会議にあわせて、お楽しみ会や焼き肉大会、勉強会等を行っています。多数の参加に繋げるため開催日(土曜日または日曜日)の工夫をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーター養成講座の依頼を受けたり、市からの相談等についてもわかる範囲でアドバイスしています。運営に関わる疑問等については意見を求め、サービス向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月のお便りに、新人紹介や運営推進会議の報告・行事等の様子が分かり易く記載されています。利用者の状況変化時には電話で報告し、情報の共有を図っています。金銭管理については訪問時に確認をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族の訪問時に、意見や思いを汲み取るよう努めています。家族に洗濯等をお願いすることで訪問しやすい工夫をしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等があった場合は、1F・2F対応できる職員によりフォローし、利用者のダメージを防ぐよう配慮がされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を段階に応じて育成するための計画を立て、月1度の内部研修・外部研修での報告会で情報の共有を図っています。職員は向上心が強く、自分に負けないことを基本に日々取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	網走ブロックグループホーム協議会でのスタッフ研修や北見認知症介護研究会に参加し、管理者・職員と交流する機会を通じてサービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるように、職員は情報を共有し、一人ひとりのバックグラウンドを大切に考え、声かけをし、他の利用者や雰囲気馴染めるよう工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを理解し、苦しみや不安・喜びを共に分かち合い、研修会で学んだ人と接することの大切さや、関わり、支え合う関係を実践しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにあった回想法により、思いや希望・意向の把握に努めています。利用者が発した言葉を記入し、家族の訪問時に聞くこともあります。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別の生活記録に短期目標・サービス内容が記載され、様子や意見等を記入し、介護計画に反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現時点での利用者・家族の状況・ニーズ等のずれがないように現状に即した計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じ、通院介助、早期退院への支援等、グループホームの持つ柔軟性を活かした支援に努めています。又、冬場はホームの両隣の雪かきのお手伝いをしています。		
4. 本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれが希望するかかりつけ医での受診となっています。受診の際は利用者の状況等を記入した手紙を持参し、情報を共有して、日々の健康管理に努めています。又、受診が困難な場合は協力医による往診体制をとっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、指針が整備されています。状態変化時は早い段階から利用者・家族・かかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応(耳元での声かけ等)の徹底を図っています。個人情報の取り扱いについては、契約時に同意を得ています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムへの配慮があり、生活歴や体調・ペースを大切に、その人らしい生活が送れるよう支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族などに利用者の嗜好品を聞き、回想法により、記憶に残っている食べ物を食してもらったり、記憶をたどり、会話に繋げ、楽しみながら食事の準備・片付け等の支援をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態に合わせ、希望に応じた入浴時間になっています。職員と一緒に入浴することもあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の気持ちや力を活かした場面づくりとして、花の水やり、タオルたたみ、食器拭き、テーブル拭き等の役割療法、ギョウザ・コロッケづくり等の作業療法、二宮金次郎物語の朗読の支援があります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気・利用者の気分や希望に応じて散歩・ドライブ・畑の水やり・日光浴等、戸外に出かけられるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常に見守り等の徹底を図り、日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援しています。運営推進会議の中で、SOSネットワークについて話し合いがされ、一人で外出した際の安全確保に繋がっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練については、年2回地域の方の協力を得て昼夜を通じ、様々な想定で実践的な訓練を実施しています。AEDの導入や砂を入れたつぼを設置し、緊急時や災害対策に備えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量については記録がとられています。1日2000ccの水分を目標としており、不足と思われる場合は、ポカリスエット・ジュース等で補っています。差し入れ・収穫時の野菜等でメニュー変更することもあります。栄養士や検食等で健康管理がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、絵・花等季節に応じた配慮がされています。一人で外を見たり、ソファーに横になったり、一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・鏡・枕等の馴染みの物で安心できる居室になっています。		